

FY2025決算 及び FY2025-2027中期経営計画の進捗状況

SHARP Corporation 2026.05.12



FY2025決算概要

- 2025年度のブランド事業は、競争環境の激化や需要の低迷などから減収となったが、営業利益は前年度を上回る。
- ディ스플레이デバイスは減収となったものの、営業赤字が大幅に縮小。
- 全社トータルの売上高は減収も、利益は改善。売上高・営業利益・経常利益は、公表を上回り、最終利益は、特別損益が大幅なプラスだった前年度から3割超の増益。
- 自己資本比率が 10.5%から 19.6%まで上昇するなど財務も大きく改善。シンジケートローンを変更。信用格付が上昇。
- 2025年度で大きな構造改革に概ね区切りがつき、2026年度は成長に向けた取り組みを強化。

(単位:十億円)	FY2024	FY2025		通期予想(2月)	予想差
	通期	通期	Y on Y		
売上高	2,160.1	1,892.8	-12.4%	1,870.0	+22.8
営業利益 (率)	27.3 (1.3%)	48.5 (2.6%)	+77.6%	45.0 (2.4%)	+3.5
経常利益 (率)	17.6 (0.8%)	57.9 (3.1%)	+228.3%	52.0 (2.8%)	+5.9
最終利益 (率)	36.0 (1.7%)	47.4 (2.5%)	+31.4%	53.0 (2.8%)	-5.6
1株当たり配当金	0円	0円			
平均為替レート					
ドル円	152.57	150.78			
ユーロ円	163.73	174.79			

ブランド事業は、厳しい事業環境下、減収ながらも**増益**を確保。
 ディ스플레이デバイス事業は、車載 及び モバイル・産業用の改善が進み、**赤字幅が縮小**

(単位:十億円)	売上高			営業利益		
	FY2024	FY2025		FY2024	FY2025	
	通期	通期	Y on Y	通期	通期	Y on Y
スマートライフ	643.5	597.9	-7.1%	21.9 (3.4%)	28.4 (4.8%)	+29.5%
スマートワークプレイス	836.3	833.8	-0.3%	59.6 (7.1%)	57.5 (6.9%)	-3.5%
ブランド事業	1,479.9	1,431.8	-3.3%	81.6 (5.5%)	86.0 (6.0%)	+5.4%
ディスプレイデバイス	452.2	423.5	-6.4%	-26.9 (-6.0%)	-18.2 (-4.3%)	-
計	1,932.1	1,855.3	-4.0%	54.7 (2.8%)	67.7 (3.7%)	+23.9%
その他	257.1	47.0	-81.7%	-7.8 (-3.0%)	0.6 (1.5%)	-
合計(連結調整含)	2,160.1	1,892.8	-12.4%	27.3 (1.3%)	48.5 (2.6%)	+77.6%

(単位:十億円)	FY2024	FY2025			
	通期	Q1-Q3	Q4	通期	Y on Y 増減額
営業利益	27.3	40.9	7.5	48.5	+21.2
営業外損益	-9.6	+6.7	+2.6	+9.3	+18.9
内: 支払利息	-10.2	-6.4	-2.2	-8.6	+1.6
為替差損益	-12.6	+1.4	+1.9	+3.4	+16.0
持分法による投資損益	+7.9	+6.0	+1.8	+7.9	+0.0
経常利益	17.6	47.7	10.2	57.9	+40.3
特別損益	+35.9	+29.7	-24.3	+5.4	-30.5
内: 投資有価証券売却益	+28.2	+0.0	-	+0.0	-28.2
固定資産売却益	+78.0	+33.8	+2.2	+36.1	-41.9
事業構造改革費用	-29.6	-3.0	-16.8	-19.8	+9.8
減損損失	-54.3	-3.5	-2.5	-6.0	+48.3
製品保証引当金繰入額	-	-	-7.0	-7.0	-7.0
税前利益	53.6	77.4	-14.0	63.3	+9.7
法人税等 他	-17.5	-9.9	-6.0	-15.9	+1.6
最終利益	36.0	67.5	-20.0	47.4	+11.4

前年に引き続き、自己資本・有利子負債が大きく改善。
棚卸資産の増加は、メモリーの先行調達などが要因

(単位:十億円)	FY2024	FY2025	
	3月末	3月末	増減
自己資本	153.3	279.9	+126.6
(自己資本比率)	(10.5%)	(19.6%)	(+9.1pt)
棚卸資産	242.0	250.3	+8.3
(月商比)	(1.34カ月)	(1.59カ月)	(+0.25カ月)
有利子負債	567.6	492.5	-75.1
純有利子負債	288.3	254.1	-34.2
(Net DEレシオ)	(1.9倍)	(0.9倍)	(-1.0pt)
FCF	+102.1	+71.5	-30.6
期末日レート			
ドル円	149.53	159.93	
ユーロ円	162.03	183.44	

中期経営計画初年度は、再成長に向けた基盤の構築が着実に前進

1. デバイス事業のアセットライト化に区切り

- ✓ カメラモジュール事業、半導体事業を鴻海に譲渡完了
- ✓ 亀山第2工場の生産停止を決定

2. 収益力の改善と財務基盤の強化が進展

- ✓ 営業利益が大幅増益
- ✓ 自己資本比率が19.6%に改善
- ✓ シンジケートローンを更改。金融機関の支援体制が強化

3. 将来への布石を打つ

- ✓ ブランド事業への投資を拡大
- ✓ 新規事業の体制強化
- ✓ 新コーポレートスローガン「ひとの願いの、半歩先。」を制定

再成長に向けた今後の方向性

- ✓ 当社の事業構成は**成熟事業が中心**であり、再成長に向けては“成長事業”の創出が不可欠
 - 新産業領域の取り組みは進めるも、立ち上げ準備～事業化初期の段階に留まり、収益化フェーズには至っていない

- ✓ デバイス事業の赤字が縮小する一方で、収益基盤である**ブランド事業が減収**に転じており、立て直しが必要
 - 中国企業の勢力拡大など、競争環境が想定以上のスピードで激化
 - 成長余地の大きい海外市場における事業拡大が十分に進んでいない

- ✓ 足元では**外部環境の厳しさ**が増しており、収益への逆風が一段と強まっている
 - メモリー/SSD価格の高騰
 - 中東情勢の不安定化に伴う原油価格の上昇
 - 金利上昇 および 円安の定着

中期経営計画の**基本戦略を維持しつつ**、
収益基盤強化と事業変革を加速し、成長軌道への転換を図る

成長軌道への転換

収益基盤強化

- ✓ **グローバル事業拡大の加速**
- ✓ **SHARPのブランド力向上**
- ✓ **ディスプレイデバイス事業の収益改善・安定化**

事業変革

- ✓ 持続的成長を牽引する**新規事業の創出と事業化の加速**
- ✓ 既存ブランド事業における**サービス/ソリューション型ビジネスへの転換**



鴻海との連携の深化



FY2026通期業績予想

- **メモリー/SSDの価格上昇**は、基本的に売価に反映
- 中東情勢悪化に起因する**樹脂・燃料価格の上昇**は、現時点では影響度の想定が難しく、今回の業績予想には未織り込み
- **為替レート**はUSD156円(前年に対して約5円の円安)

ブランド事業

- スマートライフ
- スマートワークプレイス

- ✓ 外部環境悪化に対応し、着実に利益を創出
- ✓ サービス/ソリューション事業の拡大

【収益基盤強化】

【事業変革】

ディスプレイデバイス

- ✓ 構造改革を完遂し、黒字化に道筋
 - 亀山第1工場、白山工場などの“継続事業”で営業黒字を実現

【収益基盤強化】

新規事業

- ✓ 事業立ち上げに向け、実行フェーズに移行

【事業変革】

(単位:十億円)	FY2025	FY2026	
	通期	通期予想	Y on Y
売上高	1,892.8	1,770.0	-6.5%
営業利益 (率)	48.5 (2.6%)	49.0 (2.8%)	+0.9%
経常利益 (率)	57.9 (3.1%)	39.0 (2.2%)	-32.7%
最終利益 (率)	47.4 (2.5%)	42.0 (2.4%)	-11.5%
平均為替レート			
ドル円	150.78	156.00	
ユーロ円	174.79	183.00	

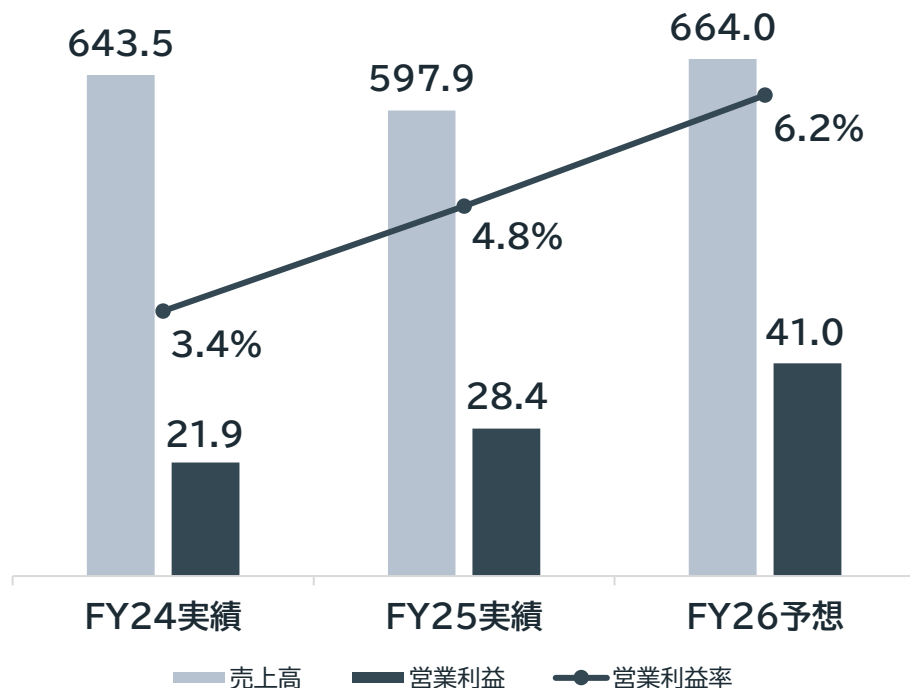
ブランド事業は、外部環境悪化の影響 及び Win11特需の反動により減益となるものの、
ディスプレイデバイス事業の収益改善を進め、**全社で増益**を目指す

(単位:十億円)	売上高			営業利益		
	FY2025	FY2026		FY2025	FY2026	
	通期	通期	Y on Y	通期	通期	Y on Y
スマートライフ	597.9	664.0	+11.0%	28.4 (4.8%)	41.0 (6.2%)	+44.1%
スマートワークプレイス	833.8	779.0	-6.6%	57.5 (6.9%)	39.0 (5.0%)	-32.3%
ブランド事業	1,431.8	1,443.0	+0.8%	86.0 (6.0%)	80.0 (5.5%)	-7.0%
ディスプレイデバイス	423.5	323.0	-23.7%	-18.2 (-4.3%)	-6.0 (-1.9%)	-
計	1,855.3	1,766.0	-4.8%	67.7 (3.7%)	74.0 (4.2%)	+9.2%
合計(連結調整含)	1,892.8	1,770.0	-6.5%	48.5 (2.6%)	49.0 (2.8%)	+0.9%
平均為替レート						
ドル円	150.78	156.00				
ユーロ円	174.79	183.00				

競争環境・外部環境が厳しい中、 グローバル展開の加速と高付加価値化を軸に、増収増益を目指す

業績推移

(十億円)



FY2025

減収/増益

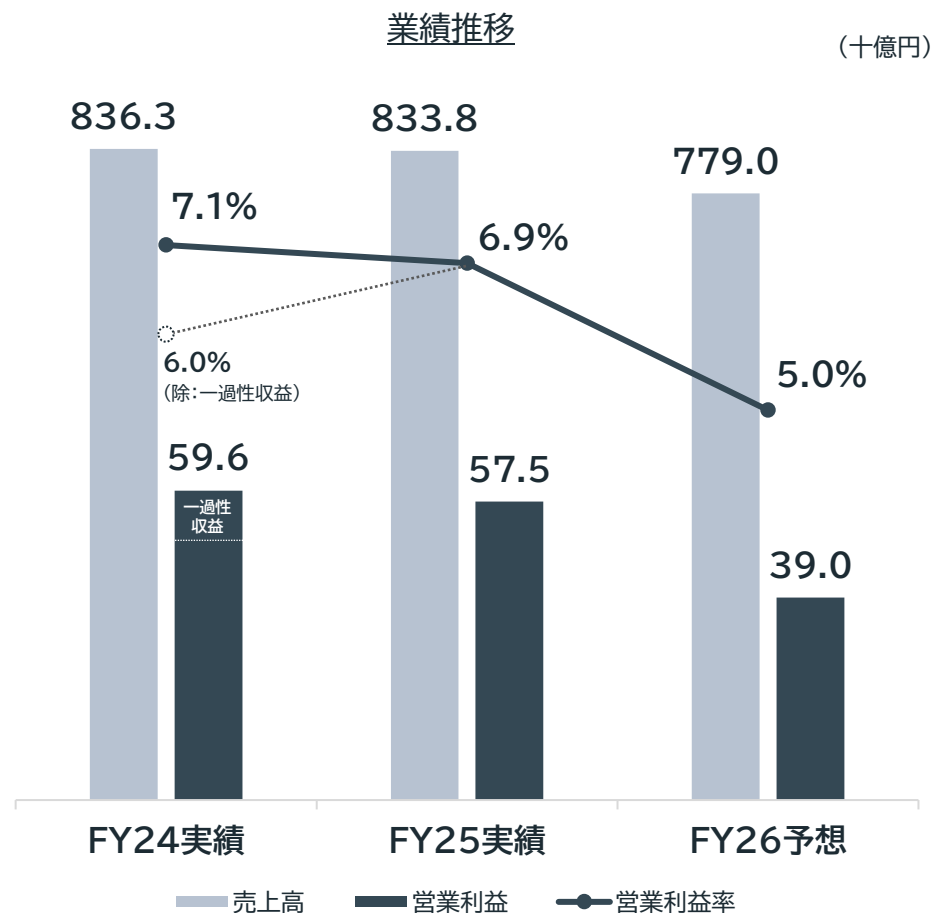
- ASEANの天候影響に伴う市況低迷によりエアコンの販売が減少
- 国内ドラム式洗濯機事業において、競争環境の激化により販売が減少
- + 米国調理事業が継続的に拡大
- + アイススラリー冷蔵庫や法人向け調理機器など、B2B事業が拡大
- + テレビ事業およびエネルギーソリューション事業における構造改革効果

FY2026

増収/増益

- + ASEANにおけるエアコンの販売拡大
- + 国内エアコン事業において、ラインアップ強化および省エネ基準改正に伴う駆け込み需要の取り込みにより、販売を拡大
- + 国内ドラム式洗濯機事業において、コンパクトモデル帯の高付加価値商品を軸に販売を回復(前年下期に新商品投入以降、好調に推移)
- + エネルギーソリューションにおけるEPC事業の拡大

Win11切替特需の反動やメモリー/SSDの価格上昇により減収減益となるものの、 オフィス向けITサービスやソリューション型ビジネスを拡大し、**スマートビジネスへの転換を加速**



FY2025

横ばい/増益
(前年の一過性収益を除く)

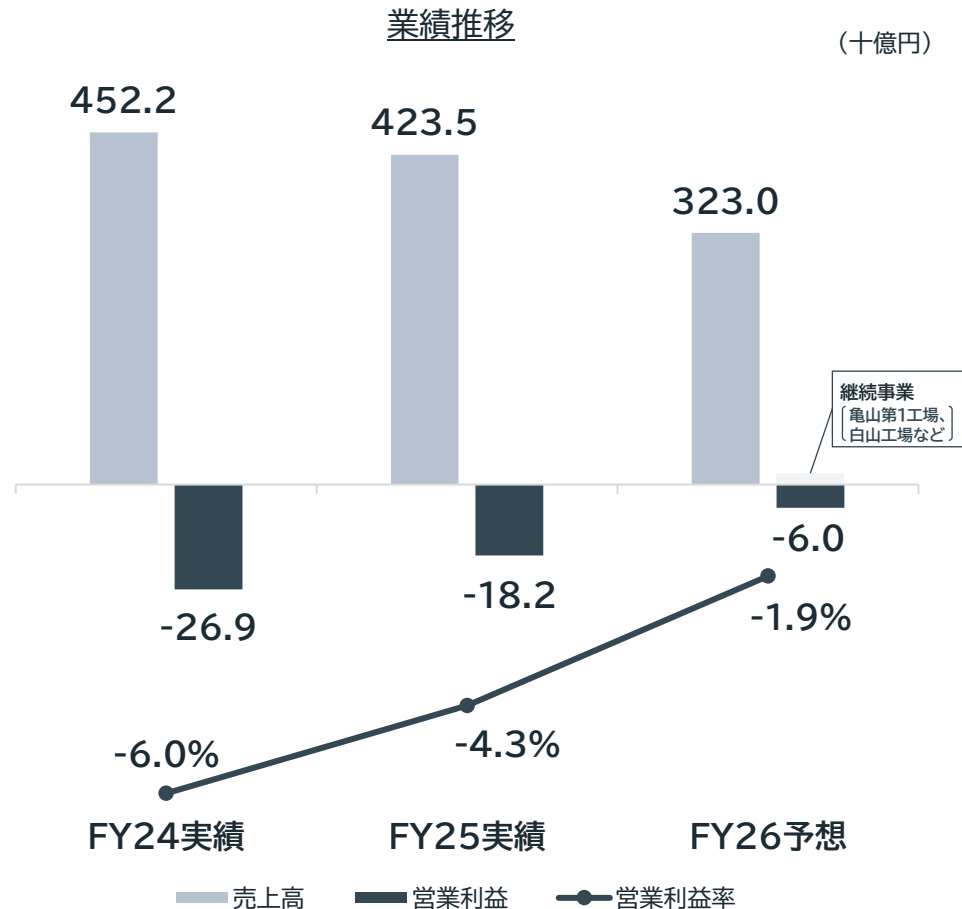
- + Windows11切替特需およびメモリー/SSDの価格高騰に伴う駆け込み需要を取り込み、パソコンの販売が大幅拡大
- + 欧州でのITサービスの継続成長により、オフィスソリューション事業が伸長
- + 国内コンビニ向けプリンティングサービスが堅調に推移
- 他社攻勢の影響により通信事業が大きく販売減

FY2026

減収/減益

- 特需の反動(国内B2B市場:対前年30%超減)により、PC事業が大きく販売減
 - 台数シェアは引き続き首位を維持
- メモリー/SSDの価格高騰による影響を、売価反映などにより最小化
- + オフィスソリューション事業の継続伸長
- + 業務用ディスプレイ事業において、dvLEDを中心とした欧米でのプロジェクト案件獲得により、販売を拡大

注力する車載・モバイル・産業用途の販売拡大に取り組み、
 亀山第1工場、白山工場などの“**継続事業**”で黒字化を実現



FY2025

減収/赤字縮小

- + 車載向けのプロダクトミックスが改善
- + 下期以降、白山工場におけるモバイル・産業用途の販売が拡大
- + 亀山第2工場および三重第3工場の生産能力適正化(24/6月)などにより固定費が低減

FY2026

減収/継続事業黒字化

【継続事業】

- + 亀山第1工場にて、欧米完成車メーカーA社向け供給を開始(下期~)
- + 白山工場において、高付加価値製品の販売拡大が継続

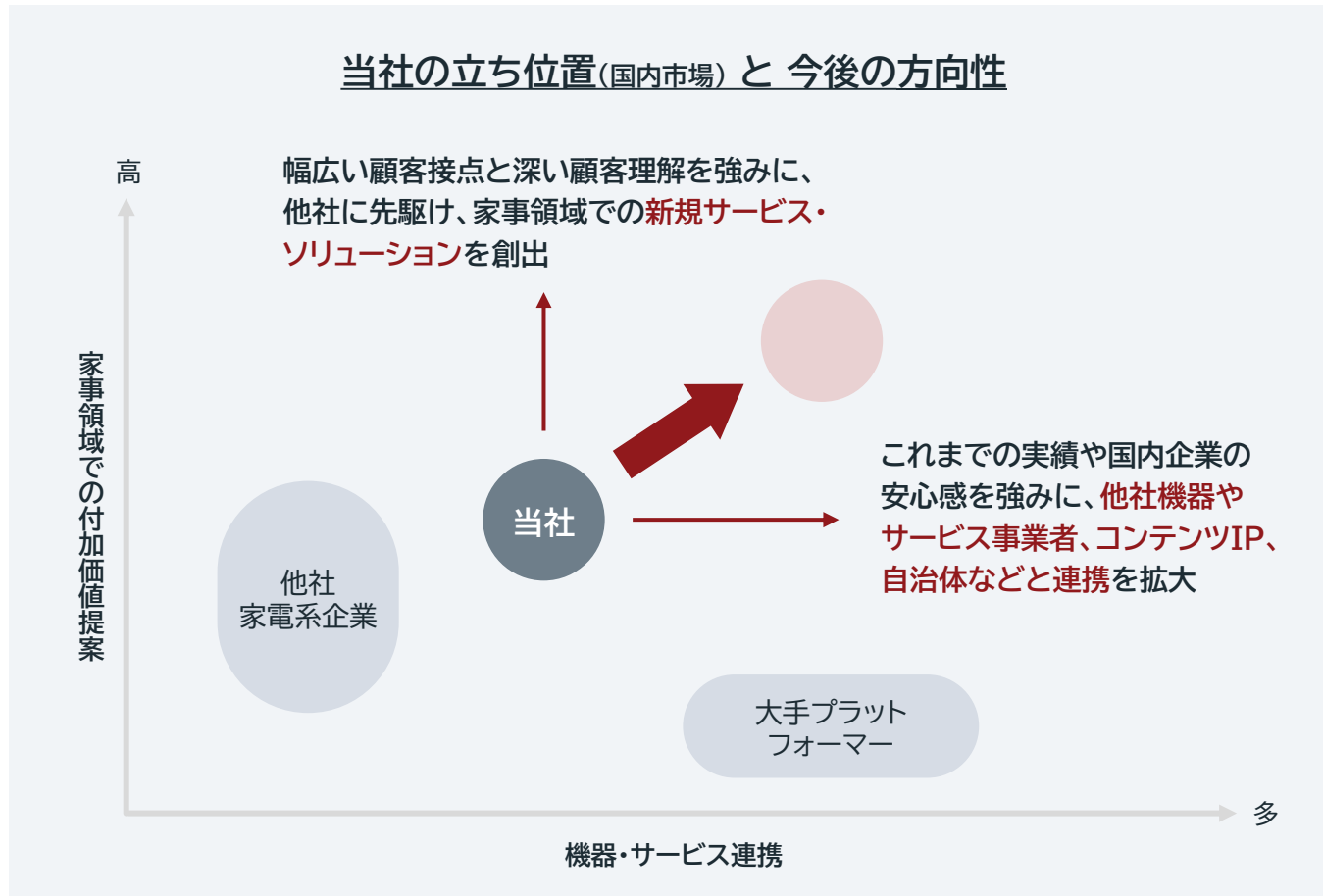
【亀山第2工場】 ※顧客需要への対応に伴い、停止時期が後ろ倒し見通し(8月⇒12月)

- 生産停止プロセスにおいてモデルミックスが悪化(同工場にて90億円規模の営業損失を見込む)



重点施策の推進状況

家事領域での付加価値提案 × 機器・サービス連携 の二軸でAIoTの価値向上を追求



FY2025の主な成果

AIoTの本格拡大に向けた基盤を構築

- ✓ 生成AI対応機器 及び 生成AI活用サービスを市場投入
- ✓ 商品別の顧客データ基盤を統合(一元化)
- ✓ 他社連携による新サービスの立ち上げ

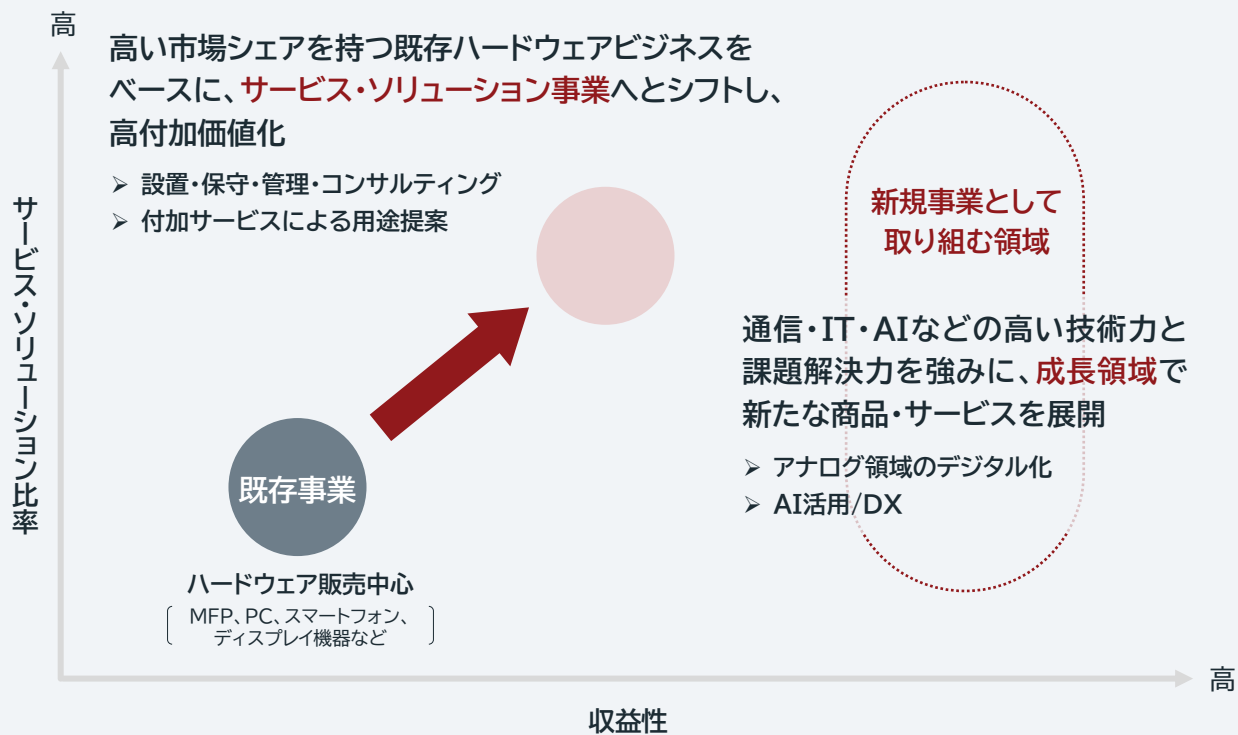
FY2026の主な取り組み

AIサービスの事業化 と グローバル展開の加速

- ✓ 暮らし全体をサポートする独自AIサービス(有償)の立ち上げ
- ✓ 生成AI対応機器/活用サービスや他社連携の継続拡大
- ✓ COCORO HOMEのASEAN展開(FY25に米国展開済)

既存事業の**高付加価値化**を図るとともに、**成長領域における新規事業**の創出に取り組み、
高収益 且つ 高成長の事業構造への転換を目指す

当社の立ち位置と今後の方向性



FY2025の主な成果

事業変革の着実な前進と成長パートナーの獲得


- ✓ オフィス向けサービス売上が継続伸長
- ✓ M&Aを通じて成長パートナー2社を子会社化
 - 26/3月 クラウドERP提供のシナプスイノベーション社(日本)
 - 26/3月 マネージドITサービス提供のセキュアコム社(ニュージーランド)

FY2026の主な取り組み

事業変革を一段と加速

- ✓ FY25子会社化2社とのシナジーの具体化
 - ERP/マネージドITサービスを既存顧客基盤に展開
- ✓ ロボティクス事業における製造業向け提案の強化
および コンサルティングサービスの拡大
- ✓ 衛星通信事業において、FY27事業化を見据えPoCを推進

各テーマにおいて、**大きな事業機会**を睨みつつ、**具体的な成果**を着実に積み上げていく

テーマ	推進ステージ			推進状況/マイルストーン
	事業性検証	参入準備	事業立上・拡大	
① AIサーバー				<ul style="list-style-type: none"> ➤ 2027年度中の日本での事業参入を目標に、具体的ビジネスプラン/スキームの立ち上げを推進中
② EV				<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市場動向などを踏まえて参入計画を精査中
③ ロボティクス・インダストリーDX				<ul style="list-style-type: none"> ➤ ロジスティクス分野での事業展開に加え、画像関連技術を強みに、鉄道や建設現場、インフラ保守などの分野で各パートナー企業とPoCを推進
④ 宇宙	衛星通信			<ul style="list-style-type: none"> ➤ 5G-NTN(5G標準による衛星通信)の研究開発で業界をリードするとともに、2027年度中の事業立ち上げに向け、欧米の衛星通信事業者とPoCを実施
	宇宙用太陽電池			<ul style="list-style-type: none"> ➤ 低軌道衛星通信の拡大を背景に、今後市場拡大が期待。これまでの実績と豊富なラインアップを強みに、顧客開拓を推進中

以下の通り、事業説明会を開催予定(詳細は別途ご案内)

日時 : 6月9日(火) 13:00 ~ 15:45(最大)

場所 : 当社芝浦オフィス + オンライン

テーマ : 事業別取り組み状況 および 新規事業推進状況

対象者 : 機関投資家・証券アナリスト・報道関係者

ひとの願いの、半歩先。

SHARP